

# 春岡村の伝説

## 春岡村と大東亜戦争 その1

ここに昭和16年12月9日付けの新聞があります。春岡村丸ヶ崎新田の農家の蔵から出てきたものです。12月8日前後の新聞のスクラップの表紙には「大東亜戦争」と墨で黒々と書かれていました（第二次世界大戦のことを当時こう呼んでいました）。

12月9日付けの夕刊が実際には8日発行で、新聞が各家庭に届いた順番は9日の夕刊が先で、見出しは「暴戾米英に対して宣戦布告 畏し大詔渙發 詔書」です。高村光太郎の「危急の日に」という詩も載っています。翌9日朝刊は「早くも拳がる此戦果此凱歌 戦艦二隻空母艦一隻撃沈 ハワイ沖で日本海戦」

春岡小学校の100周年記念誌に載っていた戦争中の思い出を少し紹介します。

学校の校庭の西のすみには浅い溝が掘りめぐらされていました。空襲警報が鳴ると授業を中断して防空頭巾をかぶりそこに飛び込み、目と耳をおおいました。登下校の際は防空頭巾をかぶり、裸足や下駄で学校に行きました。というのも、ありとあらゆる物資が不足して、はき物のズックも配給制でほとんど手に入らなかったからです。そのため昇降口の近くに足洗い場があり、わずかな水の中をピチャピチャと歩いて「すのこ」の上にあがりました。各クラスに何人か疎開してきた児童がいて、「言葉が違う、遊びが違う、食べ物が違う」といろいろ言われて学校でも放課後でもずいぶんいじめられていました。春岡村では直接戦争の被害はありませんでしたが、見沼区役所の近くの家や岩槻の河合小学校の前の野原に日本やアメリカの軍用機が墜落しています。次回そのことを紹介します。（平山由喜）

